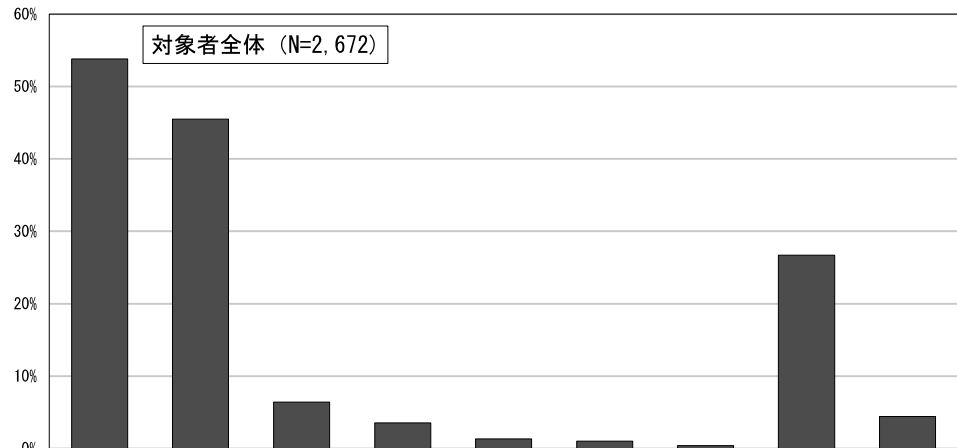


(5) 札幌市における自殺対策について

◇自殺対策の取り組みの認知度

問 2 1 札幌市における次の自殺対策の取り組みのうち、あなたが知っていたものいくつでも○をつけてください。

札幌市における自殺対策の取り組みで「北海道いのちの電話」を知っている人が53.8%



対象者数 (%)		北海道いのちの電話	札幌こころのセンター心の健康づくり電話相談	札幌市依存症相談窓口	Webサイトのナビ「札幌」	ゲートキーパー研修	マンガで知ろう「ゲートキーパー」の役割	その他	知らない取り組み	無回答	
対象者全体		2,672	53.8	45.5	6.4	3.5	1.3	1.0	0.4	26.7	4.4
性別	男性	1,051	43.0	38.4	7.6	3.6	1.3	1.0	0.3	37.4	3.8
	女性	1,604	60.8	50.2	5.6	3.4	1.2	1.1	0.4	19.6	4.7
	その他	4	100.0	50.0	-	25.0	-	-	-	-	-
年代別	29歳以下	220	45.9	54.1	6.8	5.9	2.7	2.7	-	30.0	1.8
	30～39歳	319	47.6	36.7	4.7	5.0	1.6	1.3	0.3	36.4	0.3
	40～49歳	456	52.4	47.8	4.4	5.0	1.8	1.3	0.4	29.2	1.1
	50～59歳	444	59.5	44.6	5.4	4.5	1.8	1.6	0.2	26.8	1.4
	60～69歳	526	60.8	47.5	6.7	3.0	1.0	-	0.2	24.1	2.1
	70歳以上	691	50.9	44.6	8.7	0.9	0.3	0.7	0.7	21.6	12.6

■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い
 □ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全体】札幌市における自殺対策の取り組みの認知度は、「北海道いのちの電話」が53.8%、「札幌こころのセンター心の健康づくり電話相談」が45.5%、「札幌市依存症相談窓口」が6.4%となっている。

【性別】「北海道いのちの電話」が女性で60.8%と、男性の43.0%より17.8ポイント高くなっている。

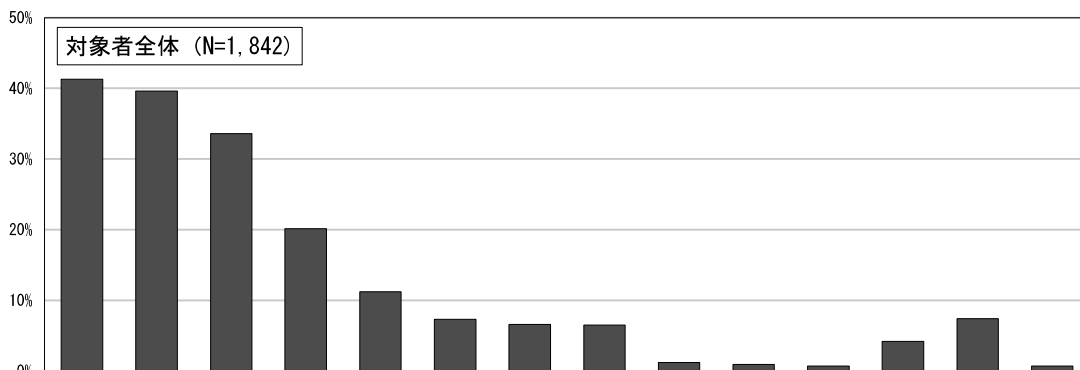
【年代別】29歳以下は「札幌こころのセンター心の健康づくり電話相談」が、30歳代以上では「北海道いのちの電話」が最も高くなっている。

◇自殺対策の取り組みを認知した方法

《問21で「1」～「7」のうち、一つでも自殺対策の取り組みを知っていたと答えた方にお聞きします。》

問21-1 あなたは、札幌市の自殺対策の取り組みをどのように知りましたか。あてはまるものにもいくつか○をつけてください。

自殺対策の取り組み情報を「テレビ・ラジオ」で知った人が41.3%



対象者数		テレビ・ラジオ	広報さっぽろ	ポスターやチラシ	新聞・雑誌	など 公共施設やその窓口	札幌市公式ホームページ	医師や医療機関	家族や知人	札幌市公式以外のホームページ	札幌市公式 SNS	札幌市公式以外の SNS	その他	覚えていない	無回答
対象者全体 (N=1,842)		41.3	39.6	33.6	20.1	11.2	7.3	6.6	6.5	1.2	0.9	0.7	4.2	7.4	0.7
性別	男性	41.9	42.4	29.6	24.6	10.5	10.7	6.8	7.3	1.6	1.3	0.6	2.4	6.6	0.3
	女性	41.2	38.5	35.7	17.8	11.5	5.6	6.6	6.0	0.9	0.6	0.7	5.2	7.6	0.8
	その他	25.0	-	25.0	25.0	25.0	-	-	-	25.0	25.0	-	-	50.0	-
年代別	29歳以下	19.3	8.7	52.0	11.3	16.7	6.0	10.7	5.3	2.0	2.7	3.3	20.7	9.3	-
	30～39歳	21.8	29.2	52.0	7.9	17.3	10.4	7.9	3.5	2.0	1.5	1.5	4.0	6.9	1.0
	40～49歳	27.0	26.7	45.0	11.3	13.2	7.5	7.5	4.7	1.9	1.3	0.3	5.0	13.2	0.3
	50～59歳	35.4	36.4	35.1	14.4	10.3	7.2	7.8	9.4	1.6	0.6	0.6	4.1	10.3	0.6
	60～69歳	57.0	47.4	24.2	23.2	7.2	7.0	4.4	6.2	0.5	0.3	0.5	0.8	4.6	0.5
	70歳以上	58.2	59.6	18.9	36.0	9.5	6.6	5.3	7.7	0.4	0.4	-	1.5	2.9	1.1

■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い
 ■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全体】自殺対策の取り組みを認知した方法は、「テレビ・ラジオ」が41.3%、「広報さっぽろ」が39.6%、「ポスターやチラシ」が33.6%となっている。

【性別】「ポスターやチラシ」が女性で35.7%と、男性の29.6%より6.1ポイント高くなっている。また、「新聞・雑誌」が男性で24.6%と、女性の17.8%より6.8ポイント高くなっている。

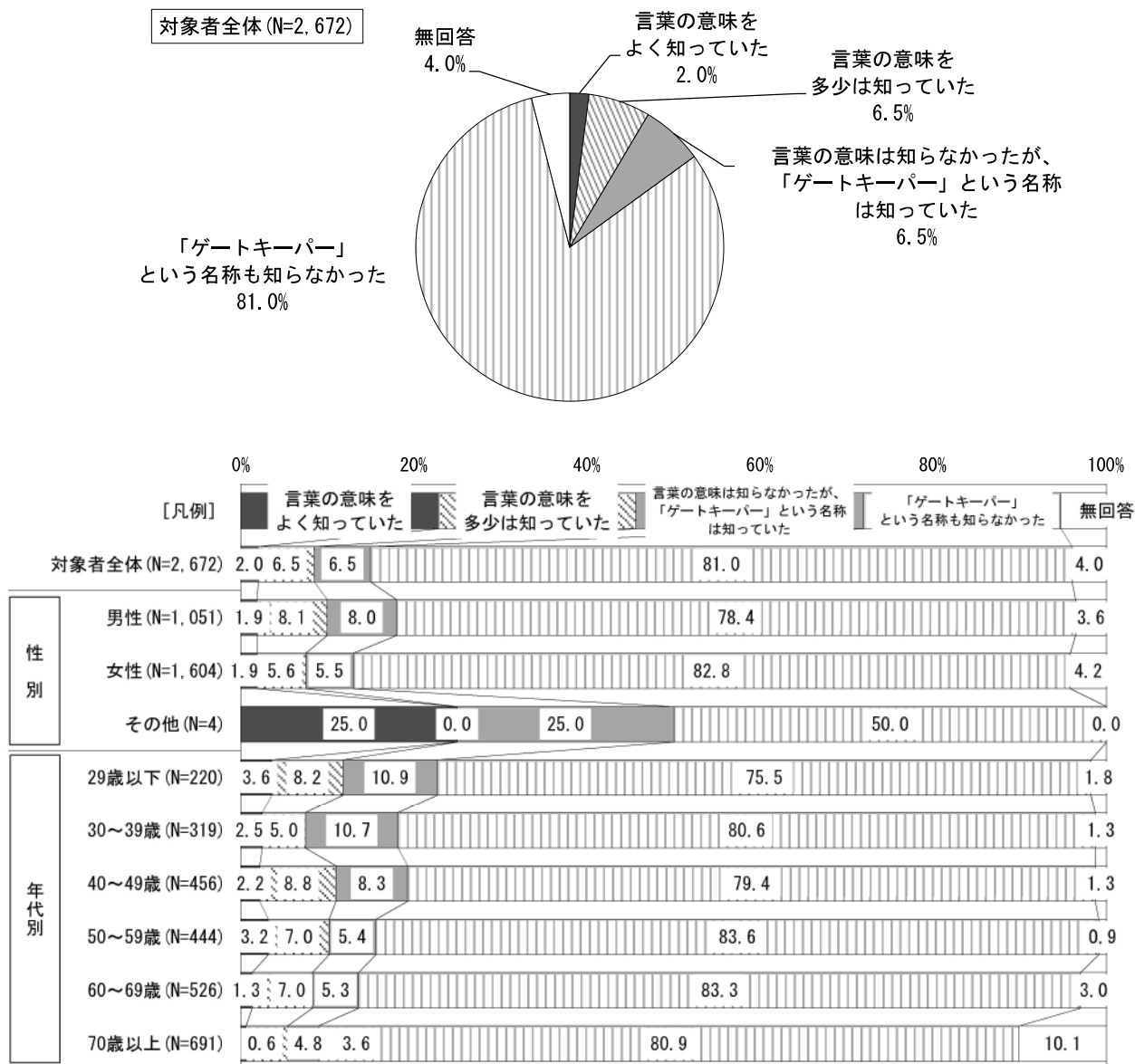
【年代別】49歳以下では「ポスターやチラシ」が、50歳代と70歳以上では「広報さっぽろ」が、60歳代では「テレビ・ラジオ」が最も高くなっている。

◇ゲートキーパーの認知度

問 2 2 あなたは、前記の「ゲートキーパー」の意味は知っていましたか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

「ゲートキーパー」の意味を“知っていた”人は8.5%

※ “知っていた”（「言葉の意味をよく知っていた」＋「言葉の意味を多少は知っていた」）



【全体】ゲートキーパーの認知度は、「言葉の意味をよく知っていた」が2.0%、「言葉の意味を多少は知っていた」が6.5%、「言葉の意味は知らなかったが、ゲートキーパーという名称は知っていた」が6.5%、「ゲートキーパーという名称も知らなかった」が81.0%となっている。

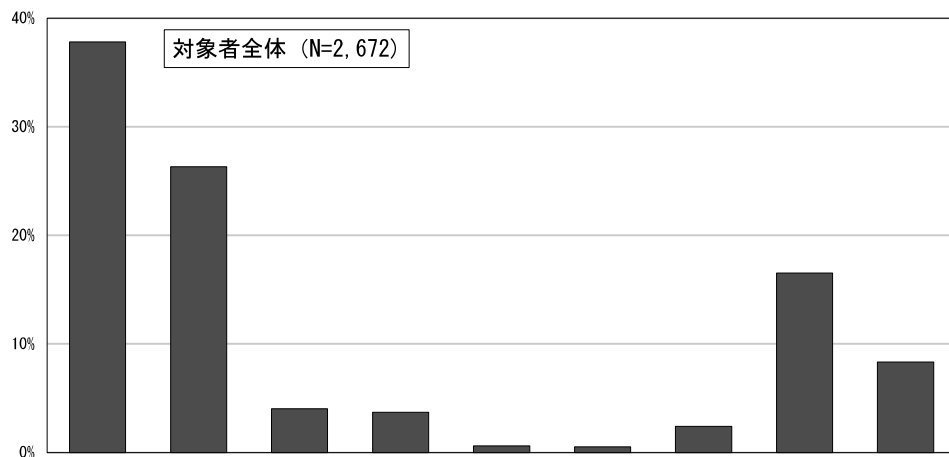
【性別】大きな差は見られない。

【年代別】「ゲートキーパーという言葉の意味を知っていた」が、29歳以下（11.8%）で最も高く、次いで40歳代（11.0%）、50歳代（10.2%）となっている。

◇悩んでいる人に気づいたときの対応方法

問 2 3 あなたは、周りにいる悩んでいる人に気づいたとき、どのように対応するのが最も望ましいと思いますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

悩んでいる人への対応は「声をかけてじっくりと話を聞く」人が 37.8%



		対象者数	声をかけてじっくりと話を聞く (%)	心配していることを伝えて見守る (%)	話しかけず、そっとしておく (%)	元気を出すように励ます (%)	気分転換のため外へ連れ出す (%)	理由を問いただす (%)	その他 (%)	わからない (%)	無回答 (%)
対象者全体		2,672	37.8	26.3	4.0	3.7	0.6	0.5	2.4	16.5	8.3
性別	男性	1,051	40.4	18.9	5.5	4.6	1.1	1.0	2.4	18.9	7.1
	女性	1,604	36.0	31.4	3.0	3.1	0.3	0.2	2.2	14.9	8.9
	その他	4	50.0	-	-	-	-	-	25.0	25.0	-
年代別	29歳以下	220	53.6	15.9	5.9	1.8	1.8	0.9	3.2	9.1	7.7
	30～39歳	319	47.6	32.9	4.4	1.9	0.3	1.3	1.6	7.8	2.2
	40～49歳	456	48.2	27.0	3.3	2.2	0.7	0.4	3.5	9.2	5.5
	50～59歳	444	38.7	31.3	3.8	2.3	0.5	0.5	2.5	15.8	4.7
	60～69歳	526	31.4	28.9	4.0	2.9	1.1	0.4	2.1	21.5	7.8
	70歳以上	691	25.8	21.3	3.8	7.5	0.1	0.3	1.7	24.3	15.2

■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い
 □ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全体】悩んでいる人に気づいたときの対応方法は、「声をかけてじっくりと話を聞く」が 37.8%、「心配していることを伝えて見守る」が 26.3%、「話しかけず、そっとしておく」が 4.0% となっている。

【性別】「心配していることを伝えて見守る」が女性で 31.4%と、男性の 18.9%より 12.5 ポイント高くなっている。

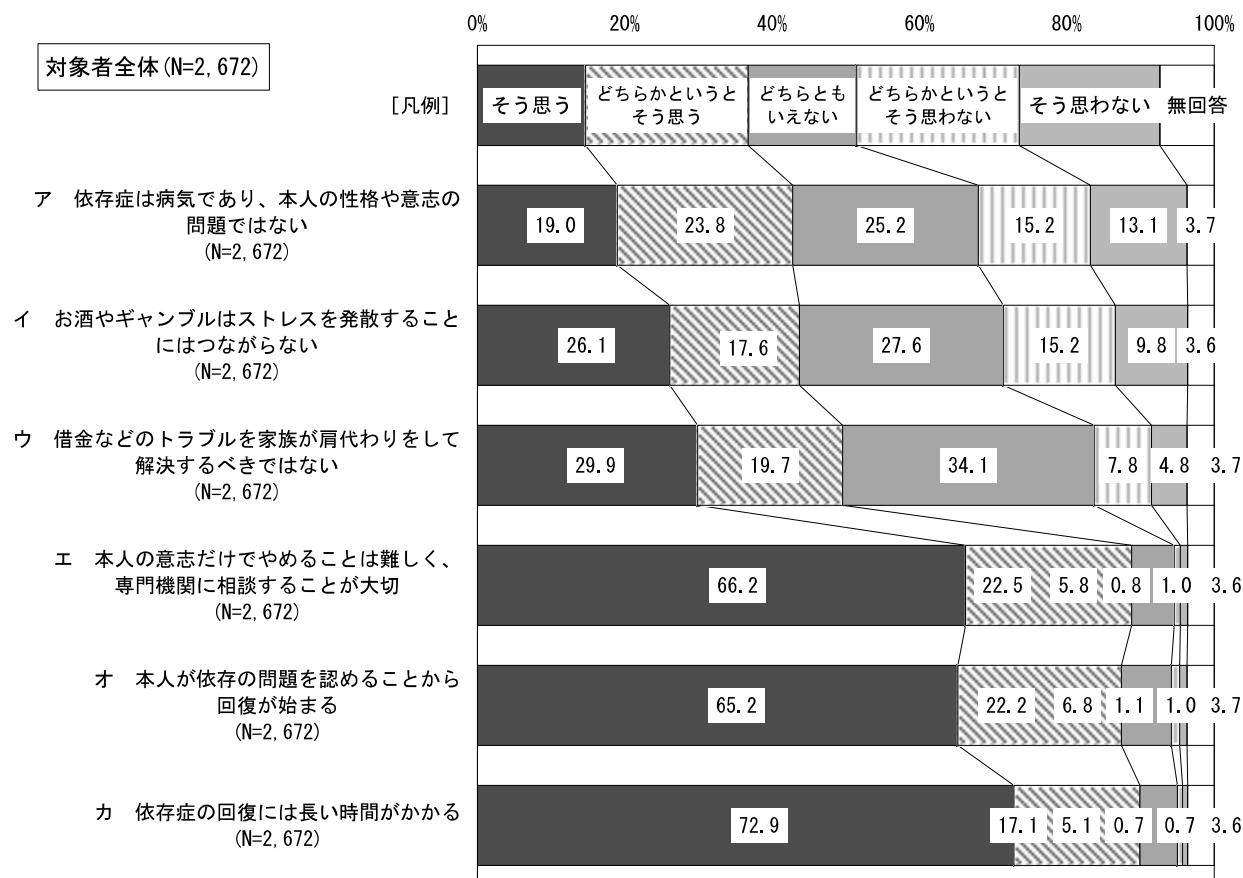
【年代別】「声をかけてじっくりと話を聞く」が 29 歳以下 (53.6%) で最も高く、最も低い 70 歳以上 (25.8%) と比べると 27.8 ポイントの差となっている。

◇依存症に関する考え方

問 2 4 アルコールやギャンブル、薬物などの依存症に関するあなたの考えを教えてください。次のア～カのそれぞれの項目について、1つずつ数字に○をつけてください。

依存症は病気であり、本人の性格や意思の問題ではないについて“そう思う”と回答した人が42.8%

※ “そう思う”（「そう思う」＋「どちらかというと思う」）



【全体】“依存症は病気であり、本人の性格や意思の問題ではない”について「そう思う」が19.0%、「どちらかというと思う」が23.8%、合わせると42.9%となっている。

“お酒やギャンブルはストレスを発散することにはつながらない”について「そう思う」が26.1%、「どちらかというと思う」が17.6%、合わせると43.8%となっている。

“借金などのトラブルを家族が肩代わりをして解決するべきではない”について「そう思う」が29.9%、「どちらかというと思う」が19.7%、合わせると49.6%となっている。

“本人の意志だけでやめることは難しく、専門機関に相談することが大切”について「そう思う」が66.2%、「どちらかというと思う」が22.5%、合わせると88.7%となっている。

“本人が依存の問題を認めることから回復が始まる”について、「そう思う」が65.2%、「どちらかというと思う」が22.2%、合わせると87.4%となっている。

“依存症の回復には長い時間がかかる”について「そう思う」が72.9%、「どちらかというと思う」が17.1%、合わせると90.0%となっている。

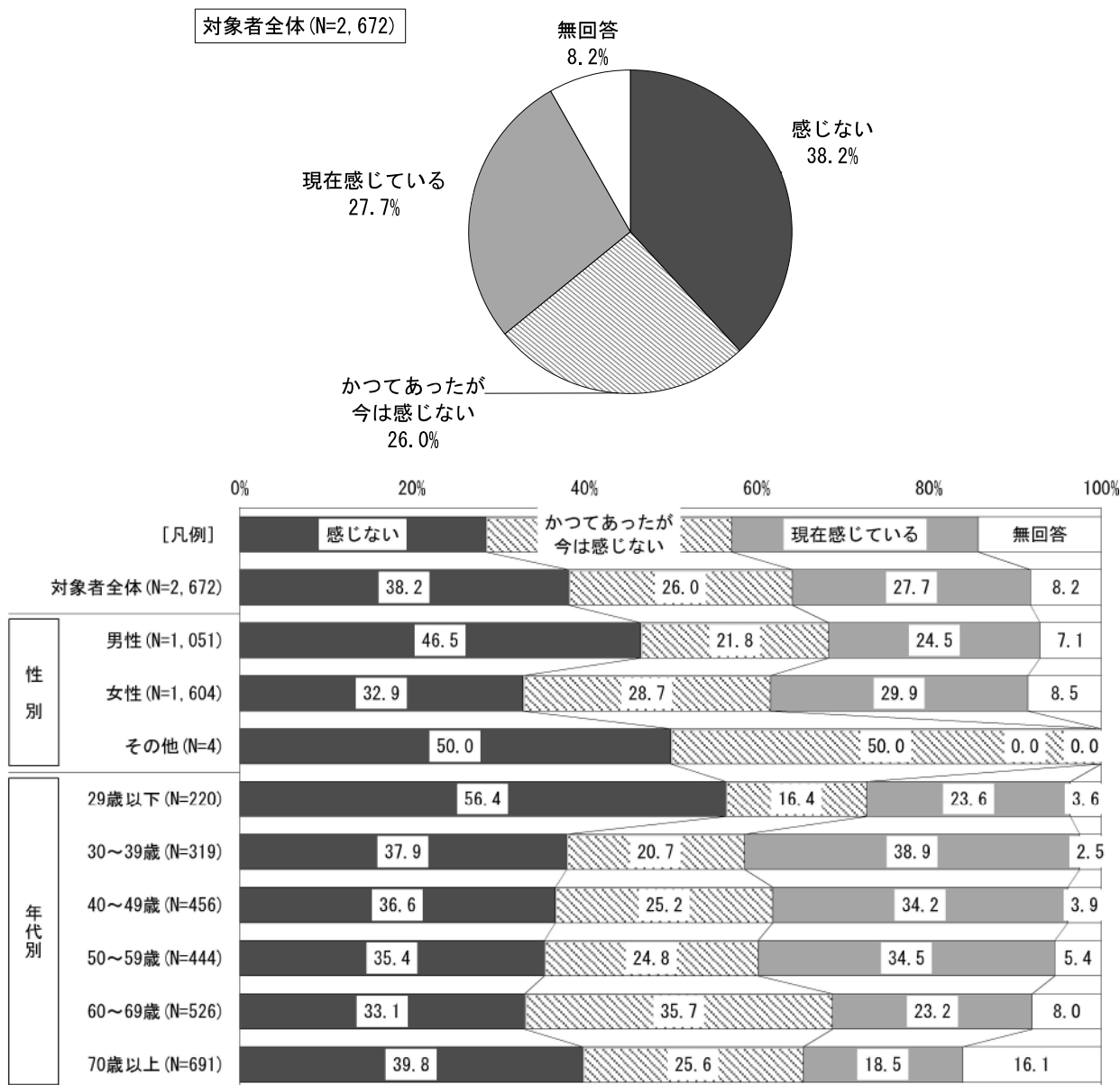
◇悩みや苦労、ストレスの不満を感じる問題

問 2 5 あなたは日頃、次の問題に関して悩みや苦労、ストレス、不満を感じますか。次のア～キのそれぞれの項目について、1つずつ数字に○をつけてください。

ア 家庭の問題・・・家族の不和、子育て、介護・看病など

家族の問題に悩みや苦労、ストレス、不満を“感じない”と回答した人が 64.2%

※ “感じない”（「感じない」＋「かつてあったが今は感じない」）



【全体】 家庭の問題に悩みや苦労、ストレス、不満を感じるかについて、「感じない」が 38.2%、「かつてあったが今は感じない」が 26.0%、合わせると 64.2%となっている。一方、「現在感じている」が 27.7%となっている。

【性別】 “感じない” が男性で 68.3%と、女性の 61.6%より 6.7 ポイント高くなっている。また、「現在感じている」は女性が 29.9%と、男性の 24.5%より 5.4 ポイント高くなっている。

【年代別】 “感じない” が 29 歳以下 (72.7%) で最も高く、次いで 60 歳代 (68.8%)、70 歳代 (65.4%) となっている。

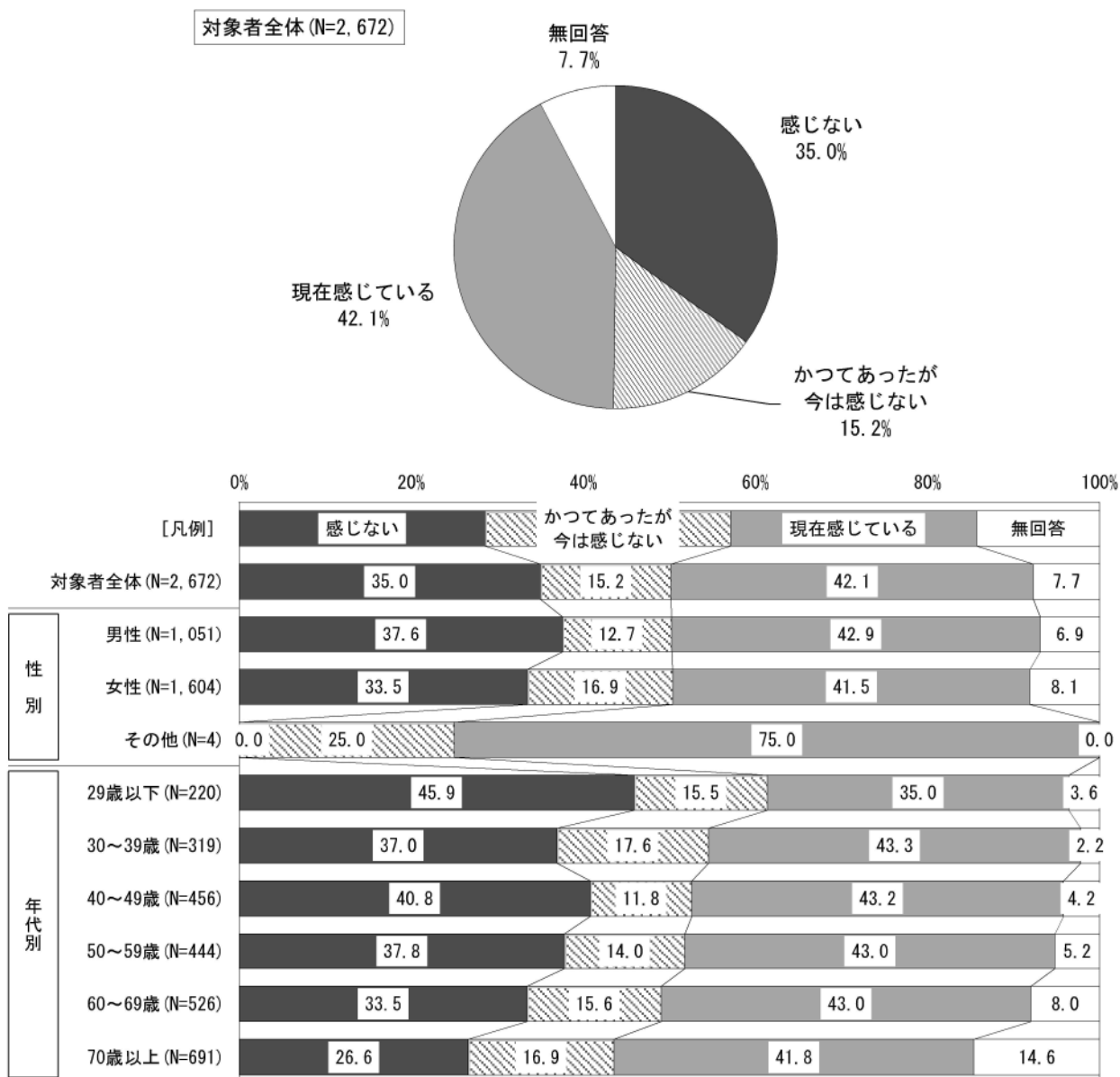
◇悩みや苦労、ストレス、不満を感じる問題

問 2 5 あなたは日頃、次の問題に関して悩みや苦労、ストレス、不満を感じますか。次のア～キのそれぞれの項目について、1つずつ数字に○をつけてください。

イ 健康の問題・・・自分の病気、体の悩み、心の悩みなど

健康の問題に悩みや苦労、ストレス、不満を“感じない”と回答した人が 50.1%

※ “感じない”（「感じない」 + 「かつてあったが今は感じない」）



【全 体】健康の問題に悩み苦労、ストレス、不満を感じるかについて、「感じない」が 35.0%、「かつてあったが今は感じない」が 15.2%、合わせると 50.1%となっている。一方、「現在感じている」が 42.1%となっている。

【性 別】大きな差は見られない。

【年代別】“感じない”が 29 歳以下 (61.4%) で最も高く、次いで 30 歳代 (54.5%)、40 歳代 (52.6%) となっている。

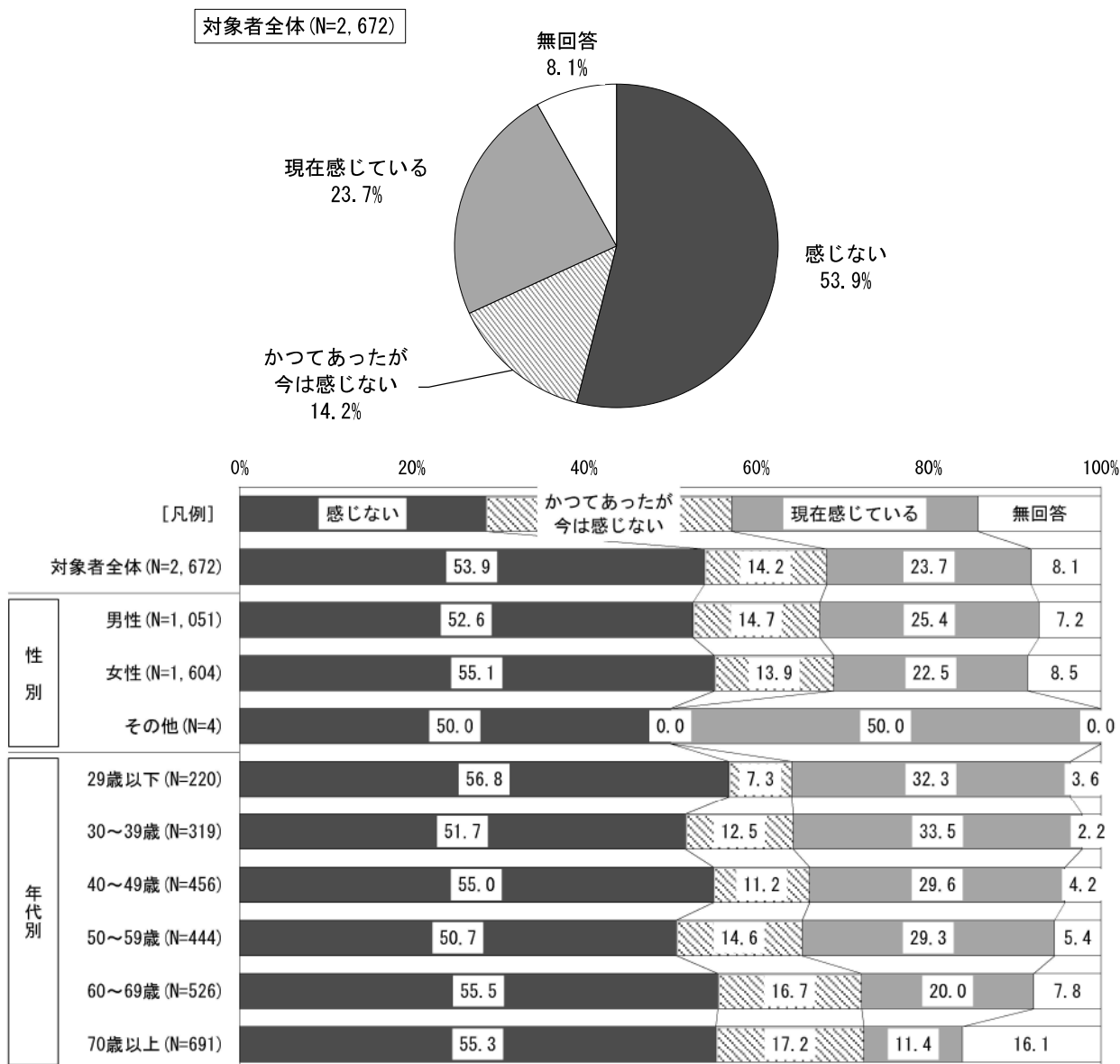
◇悩みや苦労、ストレス、不満を感じる問題

問 2 5 あなたは日頃、次の問題に関して悩みや苦労、ストレス、不満を感じますか。次のア～キのそれぞれの項目について、1つずつ数字に○をつけてください。

ウ 経済的な問題・・・倒産、借金、失業、生活困窮など

経済的な問題に悩みや苦労、ストレス、不満を“感じない”と回答した人が 68.2%

※ “感じない”（「感じない」 + 「かつてあったが今は感じない」）



【全 体】 経済的な問題に悩みや苦労、ストレス、不満を感じるかについて、「感じない」が 53.9%、「かつてあったが今は感じない」が 14.2%、合わせると 68.2%となっている。一方、「現在感じている」が 23.7%となっている。

【性 別】 大きな差は見られない。

【年代別】 “感じない” が 70 歳以上 (72.5%) で最も高く、次いで 60 歳代 (72.2%)、40 歳代 (66.2%) となっている。

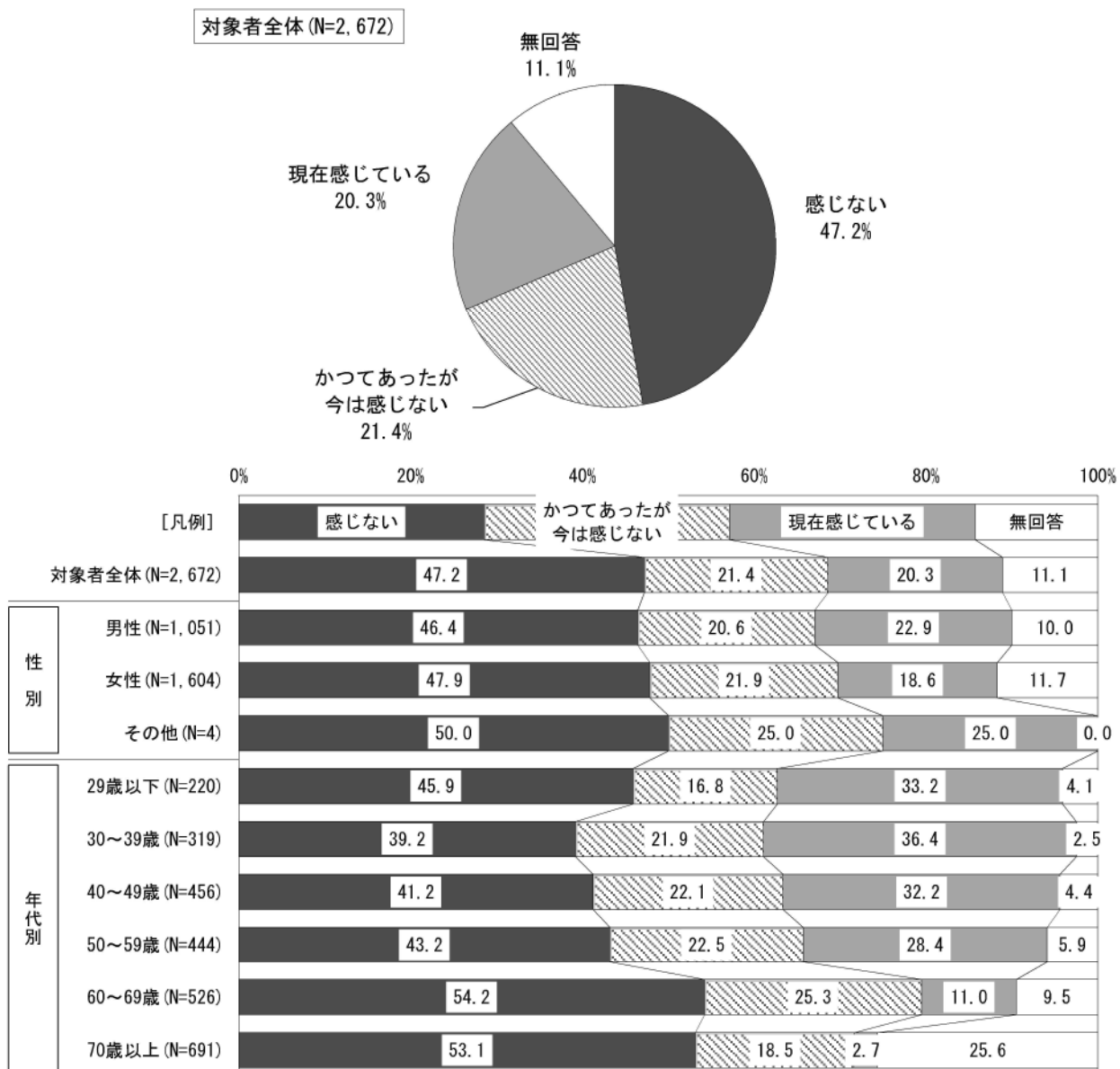
◇悩みや苦労、ストレス、不満を感じる問題

問 2 5 あなたは日頃、次の問題に関して悩みや苦労、ストレス、不満を感じますか。次のア～キのそれぞれの項目について、1つずつ数字に○をつけてください。

エ 勤務関係の問題・・・転勤、仕事不振、職場の人間関係など

勤務関係の問題に悩みや苦労、ストレス、不満を“感じない”と回答した人が 68.6%

※ “感じない”（「感じない」 + 「かつてあったが今は感じない」）



【全 体】 勤務関係の問題に悩みや苦労、ストレス、不満を感じるかについて、「感じない」が 47.2%、「かつてあったが今は感じない」が 21.4%、合わせると 68.6%となっている。一方、「現在感じている」が 20.3%となっている。

【性 別】 大きな差は見られない。

【年代別】 “感じない” が 60 歳代 (79.5%) で最も高く、次いで 70 歳以上 (71.6%)、50 歳代 (65.8%) となっている。

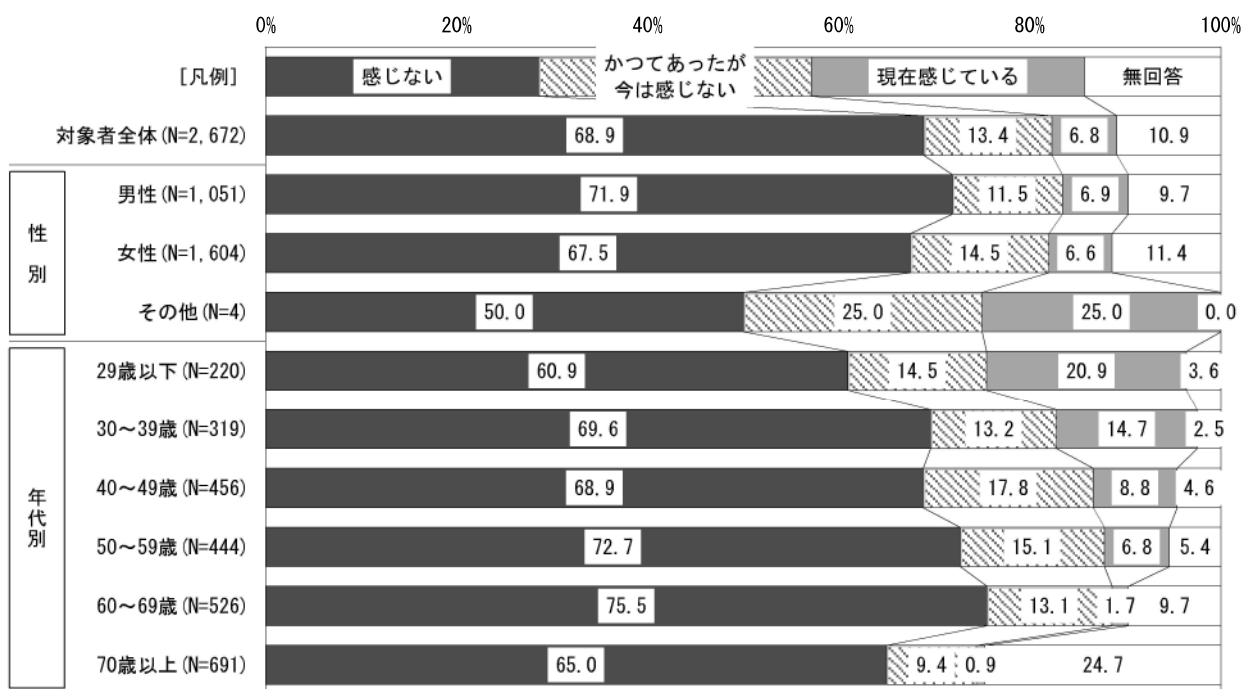
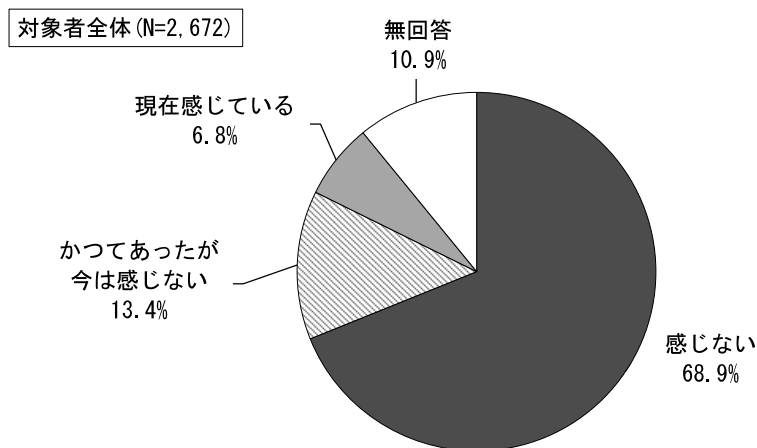
◇悩みや苦勞、ストレス、不満を感じる問題

問25 あなたは日頃、次の問題に関して悩みや苦勞、ストレス、不満を感じますか。次のア～キのそれぞれの項目について、1つずつ数字に○をつけてください。

オ 恋愛関係の問題・・・失恋、結婚の悩みなど

恋愛関係の問題に悩みや苦勞、ストレス、不満を“感じない”と回答した人が82.4%

※“感じない”（「感じない」＋「かつてあったが今は感じない」）



【全体】恋愛関係の問題に悩みや苦勞、ストレス、不満を感じるかについて、「感じない」が68.9%、「かつてあったが今は感じない」が13.4%、合わせると82.4%となっている。一方、「現在感じている」が6.8%となっている。

【性別】大きな差は見られない。

【年代別】“感じない”が60歳代(88.6%)で最も高く、次いで50歳代(87.8%)、40歳代(86.6%)となっている。

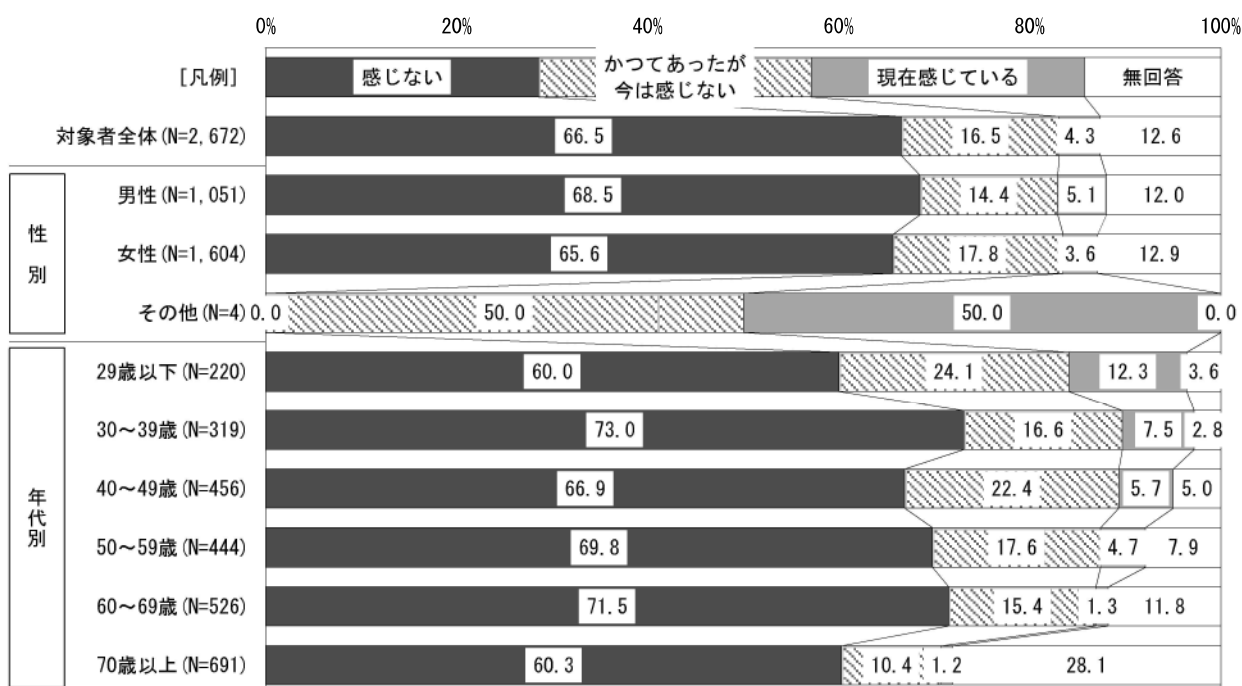
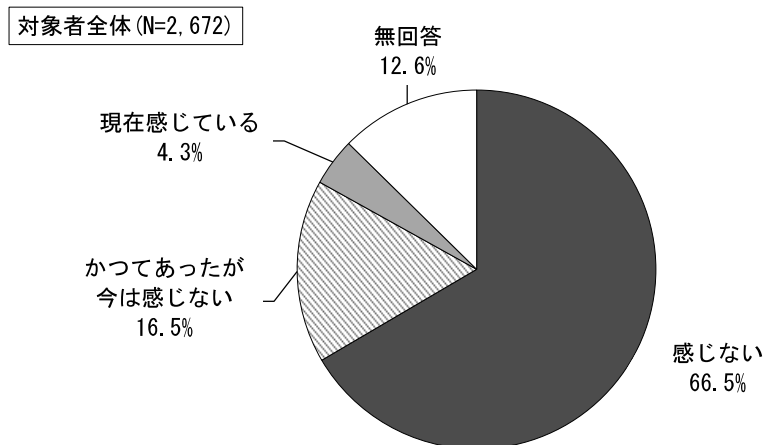
◇悩みや苦労、ストレス、不満を感じる問題

問 2 5 あなたは日頃、次の問題に関して悩みや苦労、ストレス、不満を感じますか。次のア～キのそれぞれの項目について、1つずつ数字に○をつけてください。

カ 学校の問題・・・いじめ、学業不振、進路、学校での人間関係など

学校の問題に悩みや苦労、ストレス、不満を“感じない”と回答した人が 83.0%

※ “感じない”（「感じない」 + 「かつてあったが今は感じない」）



【全 体】 学校の問題に悩みや苦労、ストレス、不満を感じるかについて、「感じない」が 66.5%、「かつてあったが今は感じない」が 16.5%、合わせると 83.0%となっている。一方、「現在感じている」が 4.3%となっている。

【性 別】 大きな差は見られない。

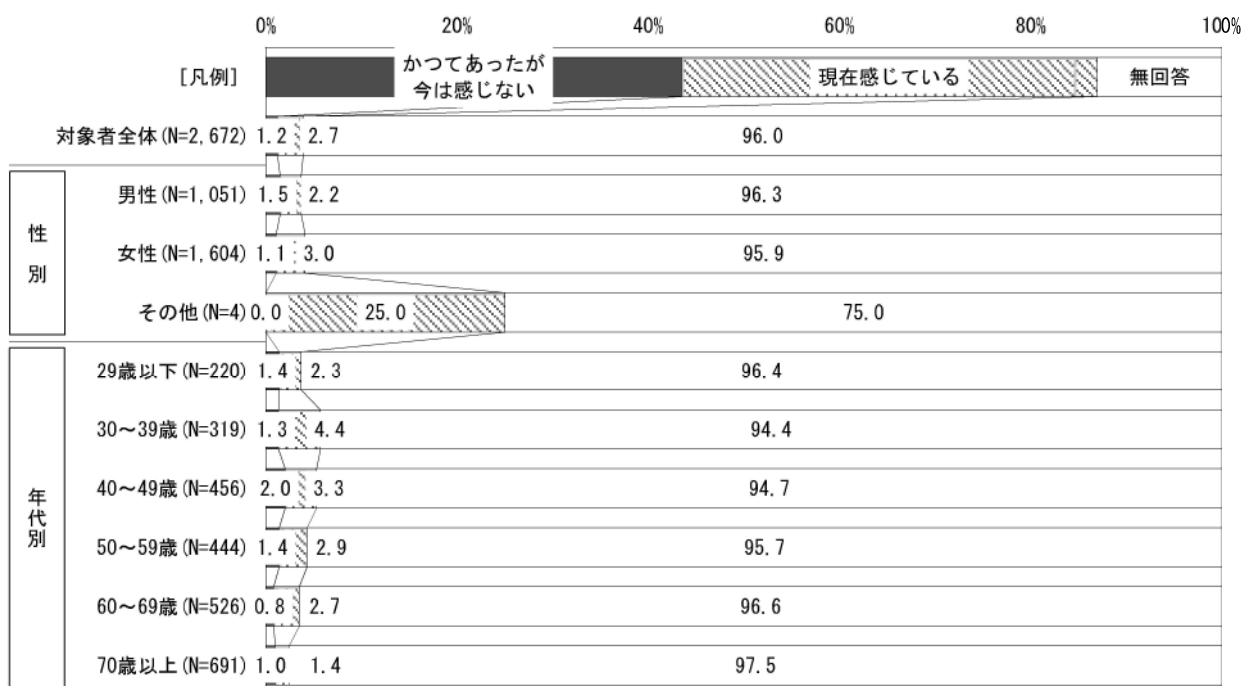
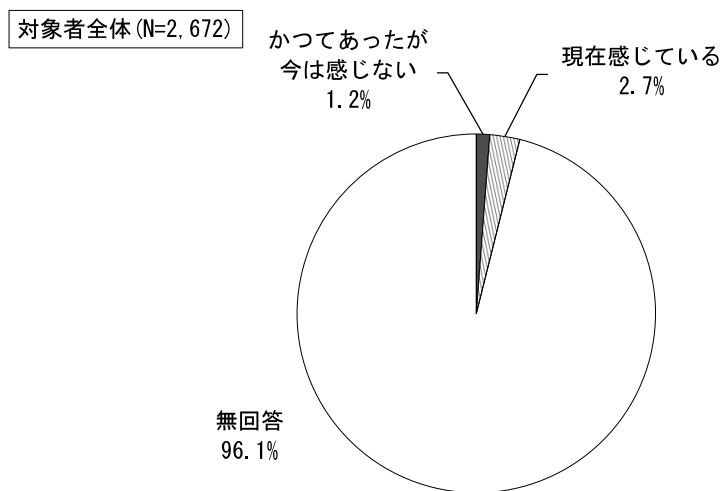
【年代別】 “感じない”が 30 歳代 (89.7%) で最も高く、次いで 40 歳代 (89.3%)、50 歳代 (87.4%) となっている。

◇悩みや苦勞、ストレス、不満を感じる問題

問25 あなたは日頃、次の問題に関して悩みや苦勞、ストレス、不満を感じますか。次のア～キのそれぞれの項目について、1つずつ数字に○をつけてください。

キ その他

その他について不満を「かつてあったが今は感じない」と回答した人が1.2%

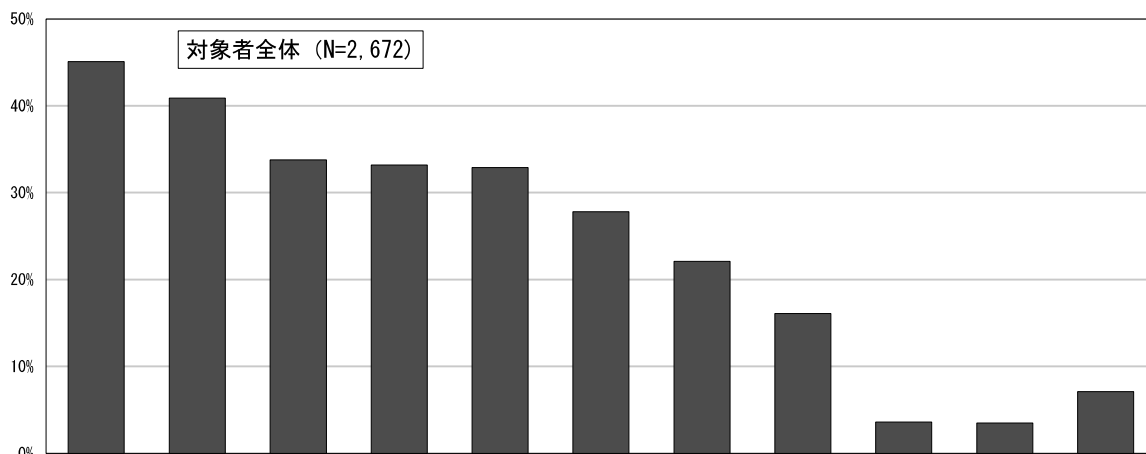


【全体】その他の問題に悩みや苦勞、ストレス、不満を感じるかについて、「かつてあったが今は感じない」が1.2%、「現在感じている」が2.7%となっている。

◇悩みや苦勞、ストレス、不満を感じたときの対処方法

問26 あなたは日頃、悩みや苦勞、ストレス、不満を感じたとき、どのように対処していますか。あてはまるものいくつかでも○をつけてください。

悩みや苦勞、ストレス、不満を感じたときは「睡眠をとる」と回答した人が45.1%



	対象者数	睡眠をとる	趣味やレジャーを楽しむ	友人や同僚に話を聞いてもらう・相談する	家族に話を聞いてもらう・相談する	体を動かす・運動する	食事をする	お酒を飲む	我慢する、何もしない	その他	日頃、ストレス、不満を感じない	無回答
対象者全体	2,672	45.1	40.9	33.8	33.2	32.9	27.8	22.1	16.1	3.6	3.5	7.1
性別												
男性	1,051	45.1	44.2	19.7	24.1	36.3	23.3	28.5	16.2	2.6	5.2	6.7
女性	1,604	45.0	38.7	43.1	39.2	30.5	30.9	18.0	16.0	4.2	2.4	7.2
その他	4	75.0	75.0	50.0	-	25.0	25.0	25.0	50.0	-	-	-
年代別												
29歳以下	220	66.4	49.1	43.6	31.8	30.0	55.5	24.5	12.3	5.0	0.5	3.6
30～39歳	319	61.8	51.4	42.6	44.2	27.6	47.6	26.3	13.5	3.1	0.6	2.8
40～49歳	456	51.5	45.6	41.9	41.7	30.9	36.8	30.3	14.5	3.9	2.2	4.6
50～59歳	444	50.5	40.3	33.1	32.7	27.0	27.0	27.5	18.9	3.2	1.6	5.2
60～69歳	526	35.6	36.7	31.2	31.7	32.7	16.3	17.9	16.7	4.4	3.2	6.7
70歳以上	691	30.4	34.3	23.9	24.3	41.5	13.2	14.2	17.1	2.6	8.1	12.7

■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い
 ▨ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全体】悩みや苦勞、ストレス、不満を感じたときの対処方法は、「睡眠をとる」が45.1%、「趣味やレジャーを楽しむ」が40.9%、「友人や同僚に話を聞いてもらう・相談する」が33.8%となっている。

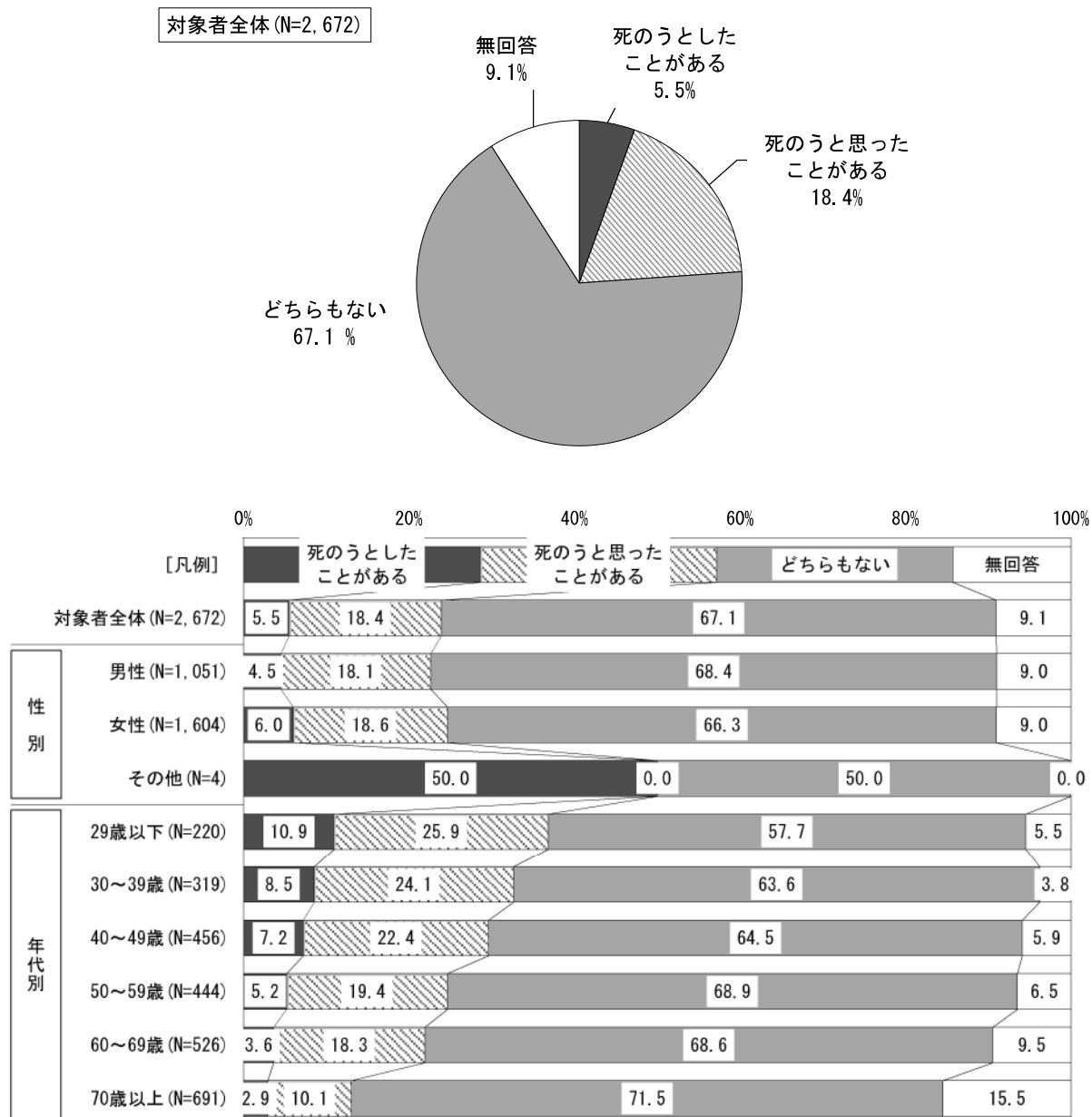
【性別】「趣味やレジャーを楽しむ」、「体を動かす・運動する」、「お酒を飲む」は男性が女性より5.0ポイント以上高くなっている。また、「友人や同僚に話を聞いてもらう・相談する」、「家族に話を聞いてもらう・相談する」、「食事をする」は女性が男性より7.0ポイント以上高くなっている。

【年代別】59歳以下では「睡眠をとる」が、60歳以上は「趣味やレジャーを楽しむ」が最も高くなっている。また、「睡眠をとる」、「食事をする」は年代が下がるにつれて割合が高くなっている。

◇死のうとした、死のうと思った経験

問27 あなたは今まで、死のうとした、または死のうと思ったことはありますか。あてはまるものに1だけ○をつけてください。

死のうとした、死のうと思った経験は「死のうと思ったことがある」と回答した人が18.4%



【全体】死のうとした、死のうと思った経験は、「死のうとしたことがある」が5.5%、「死のうと思ったことがある」が18.4%、「どちらもない」が67.1%となっている。

【性別】大きな差は見られない。

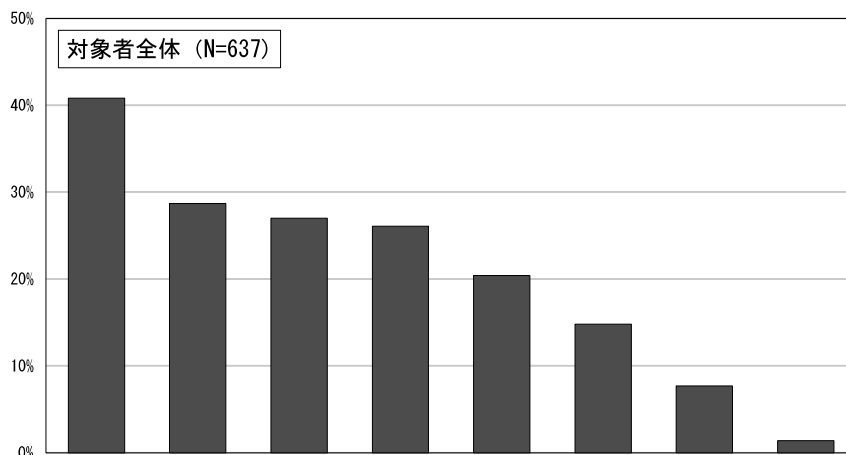
【年代別】「死のうと思ったことがある」、「死のうとしたことがある」は年代が下がるにつれて割合が高くなっている。また、「どちらもない」は年代が上がるにつれて割合が高くなっている。

◇死のうとした、死のうと思った原因

《問27で「1死のうとしたことがある」または「2死のうと思ったことがある」と答えた方にお聞きします。》

問27-1 あなたが、死のうとした、または死のうと思った原因は何ですか。あてはまるものいくつでも○をつけてください。

死のうとした、死のうと思った原因は「家庭の問題」と回答した人が40.8%



		対象者数	護・不和、家庭の問題(家族の看護病など)	勤務関係の問題(不振、職場)	健康の問題(自分の悩みなど)	経済的な問題(失業、倒産、借金など)	学校の問題(進路、進学)	その他	無回答	
対象者全体		637	40.8	28.7	27.0	26.1	20.4	14.8	7.7	1.4
性別	男性	237	22.4	42.2	29.5	32.1	17.7	11.8	6.8	0.8
	女性	395	51.6	20.8	25.3	22.5	22.0	16.5	8.1	1.8
	その他	2	-	-	50.0	-	50.0	50.0	50.0	-
年代別	29歳以下	81	28.4	28.4	23.5	19.8	50.6	17.3	9.9	-
	30~39歳	104	40.4	46.2	29.8	28.8	21.2	19.2	8.7	1.0
	40~49歳	135	39.3	35.6	24.4	19.3	24.4	24.4	3.7	-
	50~59歳	109	45.0	31.2	20.2	29.4	16.5	15.6	11.0	1.8
	60~69歳	115	45.2	19.1	29.6	25.2	11.3	4.3	5.2	1.7
	70歳以上	90	42.2	7.8	35.6	35.6	3.3	5.6	10.0	4.4

■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い
■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全体】死のうとした、死のうと思った原因は、「家庭の問題」が40.8%、「勤務関係の問題」が28.7%、「健康の問題」が27.0%となっている。

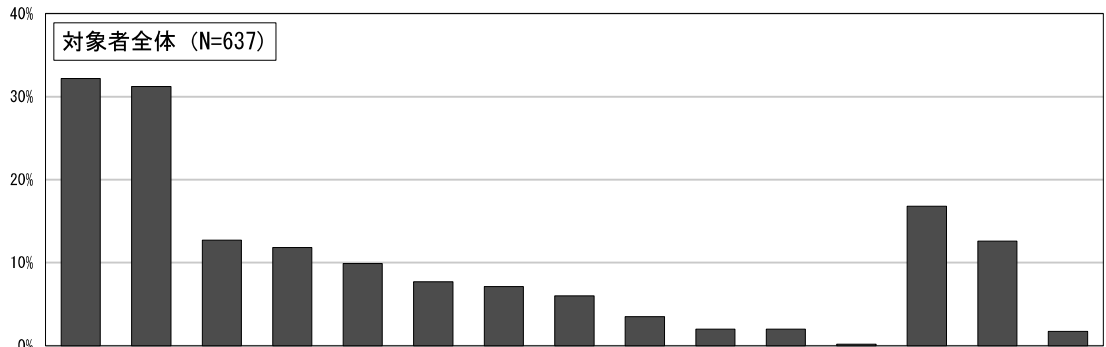
【性別】「家庭の問題」が女性で51.6%と、男性の22.4%より29.2ポイント高くなっている。また、「勤務関係の問題」は男性が42.2%と、女性の20.8%より21.4ポイント高くなっている。

【年代別】29歳以下では「学校の問題」が、30歳代では「勤務関係の問題」が、40歳以上では「家庭の問題」が最も高くなっている。

◇死のうとした、死のうと思った際に思いとどまった理由

問 2 7-2 あなたが、死のうとした、または死のうと思った際に、思いとどまったのはなぜですか。あてはまるものいくつかでも○をつけてください。

死のうとした、死のうと思った際に思いとどまった理由は「死ぬのが怖かったから」と回答した人が 32.2%



対象者数 (%)	死ぬのが怖かったから	家族や恋人の事を考えたから	家族に相談したから	友人に相談したから	医療機関を受診したから	体験談や心に響くことばに触れたから	書籍を読んだから	自死を考えた原因となった問題(借金や健康問題など)が解決したから	仕事の事を考えたから	「いのちの電話」など、相談窓口を利用したから	テレビ・ラジオやインターネットの情報を見たから	自殺防止のポスターやCM、ステッカーを見たから	その他	特に理由はない	無回答
対象者全体 637	32.2	31.2	12.7	11.8	9.9	7.7	7.1	6.0	3.5	2.0	2.0	0.2	16.8	12.6	1.7
性別															
男性 237	30.8	27.8	13.1	8.4	8.9	6.8	6.3	5.5	4.2	-	3.0	0.4	13.5	17.3	2.1
女性 395	32.9	33.2	12.7	13.7	10.6	8.4	7.3	6.3	3.0	3.3	1.5	-	18.5	9.9	1.5
その他 2	50.0	-	-	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-
年代別															
29歳以下 81	44.4	29.6	14.8	12.3	4.9	7.4	6.2	3.7	1.2	-	2.5	-	25.9	9.9	1.2
30~39歳 104	37.5	29.8	11.5	13.5	9.6	6.7	6.7	3.8	-	1.9	2.9	-	18.3	15.4	1.0
40~49歳 135	36.3	35.6	14.1	13.3	10.4	12.6	5.2	5.2	2.2	1.5	1.5	-	13.3	14.1	0.7
50~59歳 109	30.3	28.4	11.9	9.2	11.9	1.8	8.3	4.6	2.8	4.6	1.8	0.9	24.8	13.8	2.8
60~69歳 115	26.1	33.9	9.6	13.0	7.8	6.1	6.1	7.8	6.1	2.6	2.6	-	8.7	13.0	1.7
70歳以上 90	18.9	27.8	15.6	8.9	14.4	11.1	10.0	11.1	8.9	1.1	1.1	-	12.2	7.8	3.3

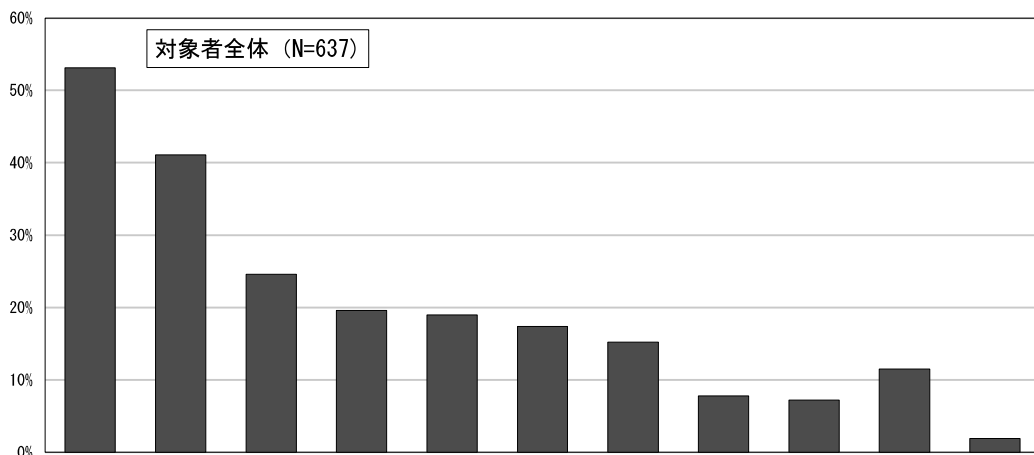
■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い
 □ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

- 【全体】死のうとした、死のうと思った際に思いとどまった理由は、「死ぬのが怖かったから」が 32.2%、「家族や恋人の事を考えたから」が 31.2%、「家族に相談したから」が 12.7%となっている。
- 【性別】「家族や恋人の事を考えたから」、「友人に相談したから」は女性が男性より 5.0 ポイント以上高くなっている。
- 【年代別】59歳以下では「死ぬのが怖かったから」が、60歳以上では「家族や恋人の事を考えたから」が最も高くなっている。

◇死のうとした、死のうと思った際にあればよかった(もの)こと

問 2 7-3 今振り返ると、その際にどのようなことがあれば、よかったと思いますか。すでにあったものや利用したものも含め、あてはまるものいくつかでも○をつけてください。

死のうとした、死のうと思った際にあればよかった(もの)ことは「心の支えとなるような日頃の人間関係」と回答した人が 53.1%



対象者数 (%)		心の支えとなるような日頃の人間関係	相談にのってくれる人	休みをとれる環境	死にたいという気持ちに気づいて声をかけてくれる人	具体的援助(例: 金銭、食料、住居の提供など)	問題に合った専門機関・相談窓口の情報	精神科医療機関(クリニックや病院)	体験談や心に響くこと(インタビューなど)	その他	特になし	無回答	
対象者全体	637	53.1	41.1	24.6	19.6	19.0	17.4	15.2	7.8	7.2	11.5	1.9	
性別	男性	237	52.7	40.9	20.3	18.1	18.6	13.1	13.9	5.1	8.4	13.5	1.7
	女性	395	52.9	41.3	27.1	20.3	19.0	20.0	15.9	9.4	6.6	10.1	2.0
	その他	2	50.0	50.0	50.0	50.0	-	-	-	-	-	50.0	-
年代別	29歳以下	81	51.9	44.4	46.9	30.9	25.9	12.3	17.3	11.1	7.4	12.3	-
	30~39歳	104	57.7	44.2	31.7	24.0	22.1	21.2	17.3	9.6	10.6	14.4	-
	40~49歳	135	59.3	45.2	25.9	21.5	24.4	21.5	16.3	9.6	5.2	11.1	0.7
	50~59歳	109	46.8	38.5	24.8	17.4	16.5	19.3	18.3	8.3	10.1	8.3	1.8
	60~69歳	115	47.8	34.8	14.8	13.0	10.4	17.4	10.4	5.2	3.5	13.0	1.7
	70歳以上	90	53.3	40.0	6.7	12.2	14.4	8.9	11.1	2.2	7.8	8.9	7.8

■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い
 □ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全体】死のうとした、死のうと思った際にあればよかった(もの)ことについては、「心の支えとなるような日頃の人間関係」が53.1%と最も高く、次いで「相談にのってくれる人」が41.1%、「休みをとれる環境」が24.6%となっている。

【性別】「休みをとれる環境」、「問題に合った専門機関・相談窓口の情報」は女性が男性より6.0ポイント以上高くなっている。

【年代別】「休みをとれる環境」、「死にたいという気持ちに気づいて声をかけてくれる人」は年代が下がるにつれて割合が高くなっている。